６０１１－１７５８
平成３０年１１月３０日

各関係機関の長
各病害虫防除員　殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成３０年度病害虫防除情報第８号

冬春トマトの病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

トマトすすかび病の発生が、平年より早い時期から認められています。適切なほ場管理と初期防除に努めましょう。

１　作物名　　冬春トマト（ミニトマトを含む）

２　病害虫名　　すすかび病、葉かび病、灰色かび病

３　発生状況（経過）

１１月中旬に実施した巡回調査において、すすかび病の発生面積率は平年より多、程度(発病葉率)は平年よりやや多であり、葉かび病及び灰色かび病は面積・程度ともに平年並の発生であった（図１～図３）。

平成２９年産ではトマト灰色かび病および葉かび病、平成２８年産ではトマト葉かび病およびすすかび病で注意報を発出しており、近年、各種地上部病害の発生が多い傾向が認められている。

１）すすかび病

発生面積率：30.0%（前年 10.0%、平年 8.5%）　　**平年より多**
発 病 葉 率：　3.0%（前年　0.6%、平年 0.9%）　　**平年よりやや多**

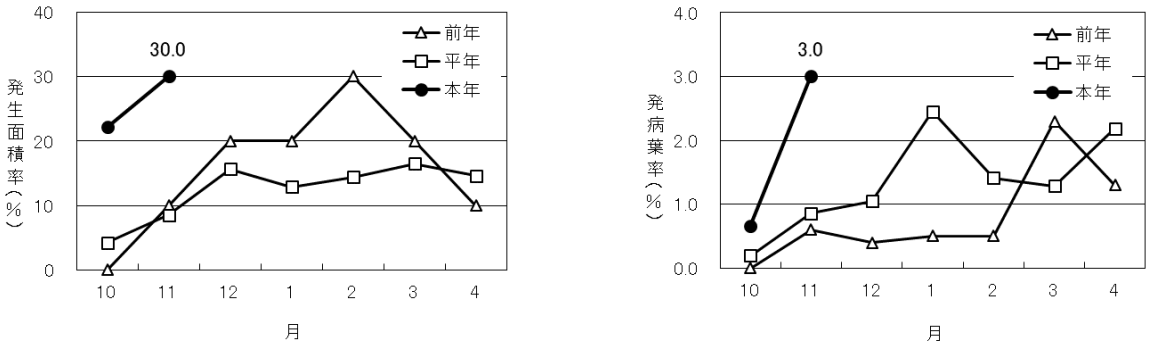


図１　すすかび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)

２）葉かび病

発生面積率：　0%（前年 10.0%、平年 2.7%）　　平年並
発 病 葉 率：　0%（前年　0.1%、平年 0.0%）　　平年並

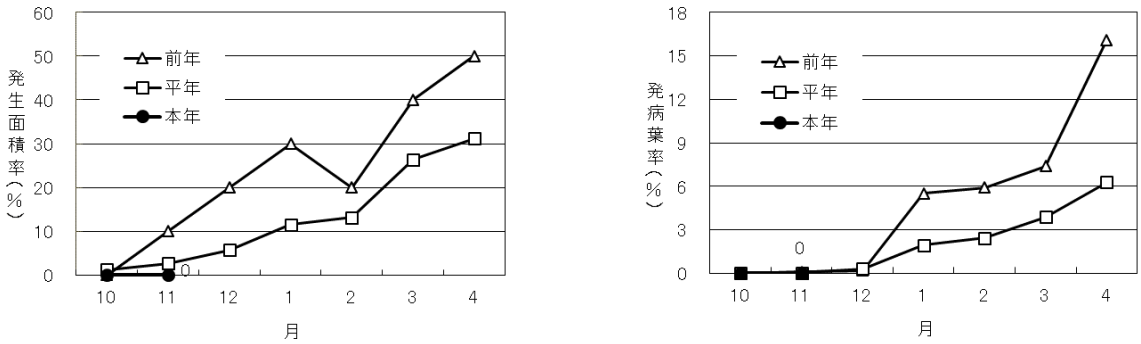
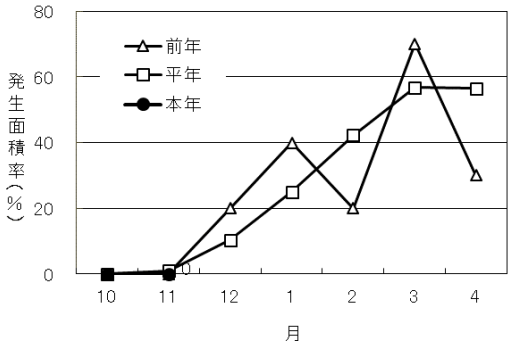


図２　葉かび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)

３）灰色かび病
　発生面積率：　0%（前年　0%、平年 1.0%）　　平年並
　発 病 葉 率：　0%（前年　0%、平年 0.0%）　　平年並



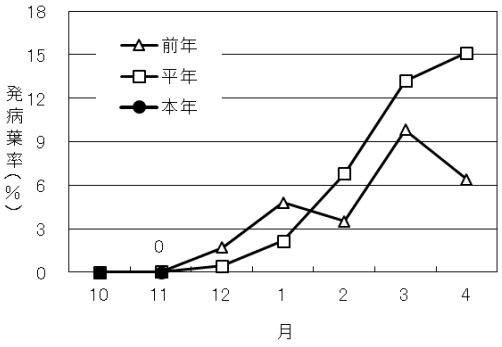


図３　灰色かび病の発生面積率(左)と発病葉率(右)

４　防除上の注意

１）冬季は内張カーテンの設置等により、ハウス内が過湿状態となりやすい。日中も送風を行うなど、できるだけ施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。

２）茎葉の過繁茂は発病を助長するので、可能な限り摘葉し、日当たりや風通しを良くし、薬剤が付着しやすいようにする。

３）発病茎葉は感染源となるため、施設外に持ち出し、適正に処理する。
　灰色かび病菌は、しぼんだ花弁にも寄生し増殖するため、果実と接触した部分から侵入して発病させることから、咲き終わった花弁はできるだけこまめに除去する。また、葉や茎の傷口等が乾きにくいと、そこから侵入し発病しやすくなるので、ハウス内を過湿状態にしない。

４）いずれの病害も、多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおき、発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。

５）薬剤は、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。いずれの病害も薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布後に防除効果が認められない場合は、他の薬剤による追加防除を行う。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》
宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター）森下・倉永
TEL：0985-73-6670　FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp